

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	548 収穫まつり開催事業	会計	01	一般会計
		款	06	農林業費
		項	01	農業費
基本 施策	43 伊賀ブランドの価値を高め、売り出す	目	03	農業振興費
		細目	287	農業振興経費
		細々目	53	収穫まつり開催事業
行革大綱の重点事項番号				
担当部署	コード 700100 名称 大山田支所振興課	担当者 氏名	竹岡章裕 連絡先 47 - 1157 (内線)	

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	大山田支所管内の市民	※対象件数
成果(どうする)	地域産業の発展と住民による地域づくり、都市住民との交流が図れる。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成 2 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H22 事業内容	事業内容：まつりの企画・運営・準備・片付け (H22年度実績) 委託先：大山田収穫まつり実行委員会 会場設営委託料：935,260円 10月31日の開催に向け準備を進めてきたが、台風の接近により開催できなかった。	
社会情勢 の変化等		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)	
1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)	
1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
出店団体	出店団体	団体	目標 45	実績 47	47	47
			目標 47	実績 0		
			実績 47	実績 0		
出店ブース数	出店ブース数	箇所	目標 55	実績 50	50	50
			目標 49	実績 0		
			実績 49	実績 0		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
来客数	来客数	まつりの来客数により、盛況ぶりを判断する	人	目標 9000	実績 7000	目標 9000	実績 0
				目標 7000	実績 0	目標 9000	実績 9000
				実績 7000	実績 0	実績 9000	実績 9000

投入コスト	直接事業費計(A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
Aの 財源 内訳	国庫支出金	2,295	936	1,951	1,951
	県支出金				
	地方債				
	その他	0	0	0	0
	一般財源	2,295	936	1,951	1,951
事業投入人件費(B)		0.3人	2,180	0.2人	1,440
フルコスト(A)+(B)		4,455	2,378	3,391	3,391

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)	
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業		
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業		
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業		
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業		
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業		
有効性	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	地域の団体や組織を中心に模擬店を出店していたが、団体の活動をPRする場を提供することにより、地域産業の発展と住民による地域づくりや地域間交流を進められ、地域活性化もしくは農村活性化の推進につなげる。	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
	民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業		
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	○	
達成度	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
	財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○	
効果性	基本施策の目的を達成するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高		
	サービス水準や対象を見直す余地がある。		
	当初設定した計画を	60%未満 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無	無	台風のため開催できなかった。
	【予算の繰越がある場合、繰越の種類】		
昨年度の取組状況	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。		
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。		
	【事業名】		
	受益者負担を求めることができる事業である。		
	全体コストにおける負担構成は適正である。		
コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。			

改善策	平成22年度中に収穫まつりの運営について、事務局や実行委員会のあり方の協議を行う。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 今まで実行委員会と行政で行っていた準備・運営等について、支所職員の削減もあり平成22年度からは実行委員会主体で実施するようにした。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	西口敏之
事業の方向性	【方向性】 内容変更 【理由】 今後、より多くの市民の参加が得られるよう創意工夫していくことが必要。
現時点における課題、その他	今後、収穫まつりの運営について、事務局や実行委員会のあり方の検討が必要である。
課題、その他に対する改善策	平成23年度中に事務局の移行について実行委員会と協議を行う。
(いつまでに、何を、どうする)	